

「印西の庚申塔と女人講石塔」 図版資料

表1 印西市と周辺地域の講石塔の数

	庚申塔	十九夜塔	子安像塔	子安文字塔・石祠
印西地区*	366	218	111	10
印旛地区*	170	100	108	0
本埜地区*	100	58	38	1
印西市計	636	376	257	11
白井市	270	83	52	2
八千代市	432	86	141	17
佐倉市	125	80	103	2
酒々井町	20	19	17	1
成田市*	119	61	8	4
我孫子市	246	69	3	1
周辺市町計	1212	398	324	27

*印西地区は旧印西町域、印旛地区は旧印旛村域、本埜地区は旧本埜村域、成田市は旧成田市域を示す

表2 印西市と周辺地域の講石塔の初出年

	庚申塔	十九夜塔	子安像塔	子安文字塔・石祠
印西地区*	寛文元年（1661）	寛文5年（1665）	天明7年（1787）	元文3年（1738）
印旛地区*	元禄13年（1700）	寛文6年（1666）	宝暦3年（1753）	寛延3年（1750）
本埜地区*	延宝3年（1675）	寛文9年（1669）	安永5年（1776）	安永5年（1776）
白井市	寛文10年（1670）	寛文10年（1670）	文化6年（1809）	寛政12年（1800）
八千代市	万治3年（1660）	寛文11年（1671）	文化11年（1814）	元禄16年（1703）
佐倉市	慶安3年（1650）	寛文9年（1669）	寛政6年（1794）	元文4年（1739）
酒々井町	正徳元年（1711）	延宝2年（1674）	享保18年（1733）	天明5年（1785）
成田市*	延宝8年（1680）	寛文11年（1671）	宝暦2年（1752）	文政6年（1823）
我孫子市	万治2年（1659）	寛文8年（1668）	天明元年（1781）	明和7年（1770）

図1 印西市の江戸中期の青面金剛像と三猿像の一典型例



戸神宗像神社
享保3年(1718)



下曽根市杵島神社
享保3年(1718)



笠神古墳群
寛延2年(1749)



物木317庚申塚
宝暦4年(1754)



物木317庚申塚
享保3年(1718)



戸神宗像神社
享保12年(1727)



泉集会所
宝暦8年(1758)

☆大島洋一氏が「生首持ち型青面金剛」と提起した特徴点 (『日本の石仏』148号)

- ・主尊の目がいわゆるアーモンド形で、右手に鈴状または人身の頭部らしき袋状のものをもち、宝輪を持つ手が直角で水平に伸び、迫力のない邪鬼がうづくまる
- ・三猿は、両端横向きで中央が正面向き。一列の平型、または三角型に配置する

☆石田年子氏の報告 (2014.8.2 公開講座「北総の生首持ち庚申」)

- ・印旛・手賀沼周辺に限定してこの青面金剛像塔が 118 基、三猿文字塔が 17 基ある。
- ・享保 3 年 (1718) から宝暦 12 年 (1762) の 44 年間に限定される。
- ・上記期間の全青面金剛像塔の 25% を占め、印西市では 42 基 (最近での筆者把握は 43 基)、次いで白井市で 23 基が確認される。

図2 印西市内の十九夜塔・子安像塔などの造立数の推移

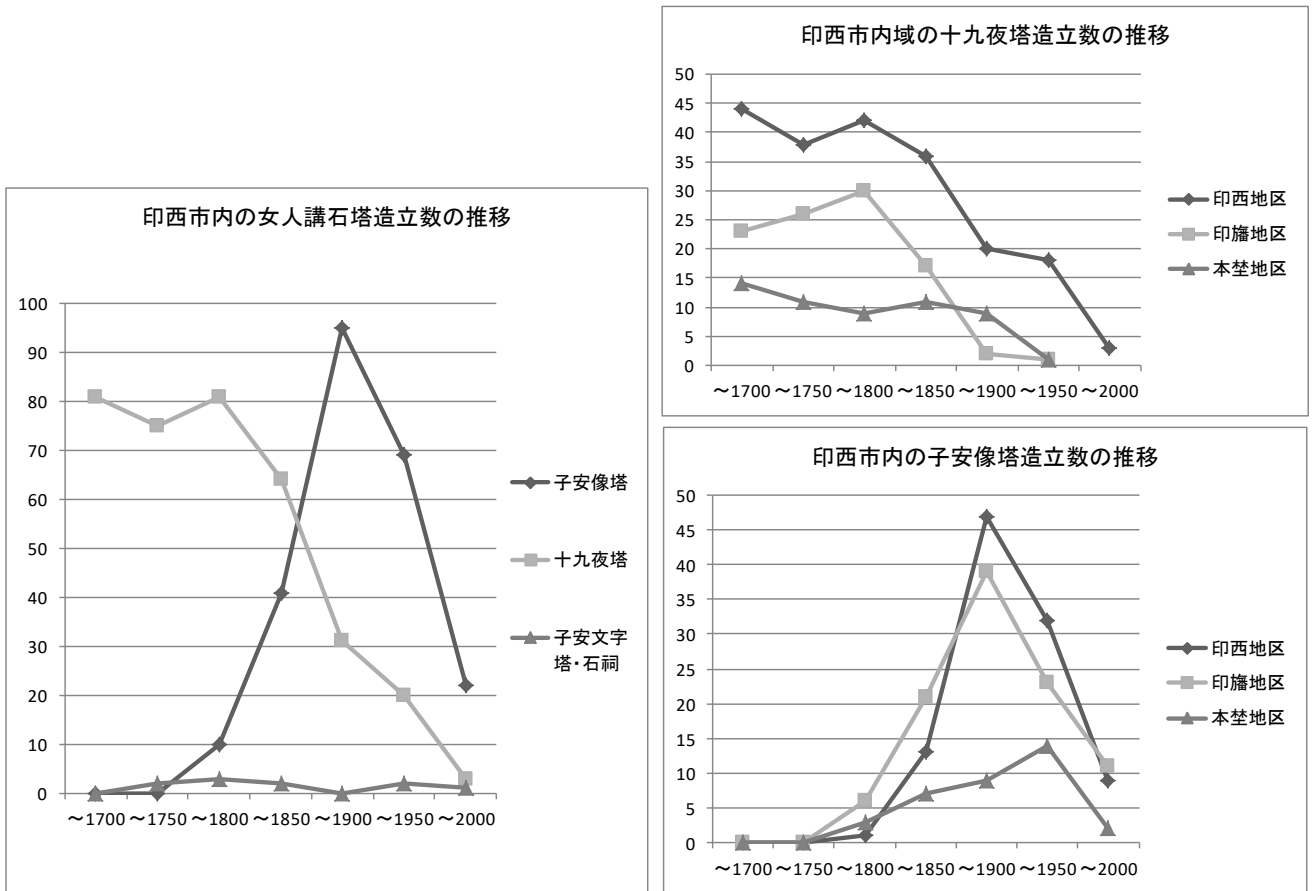


図3 下総地方の子安像塔造立数の推移

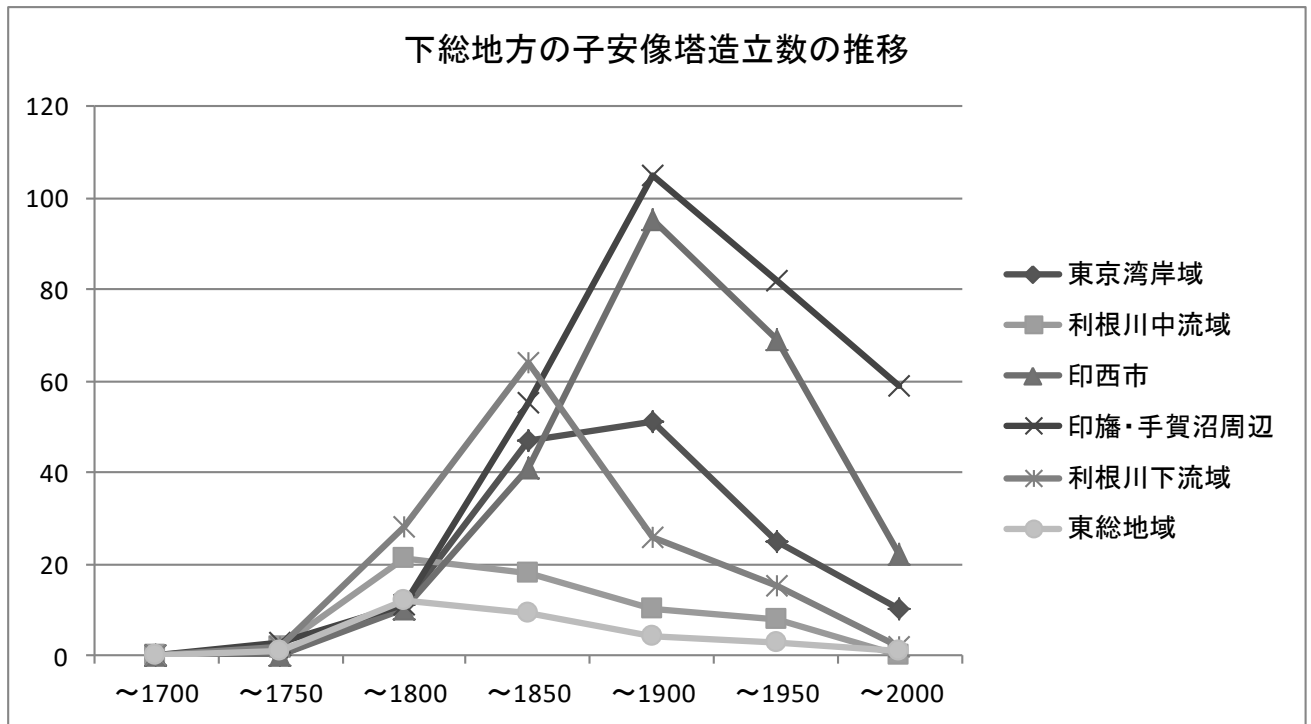
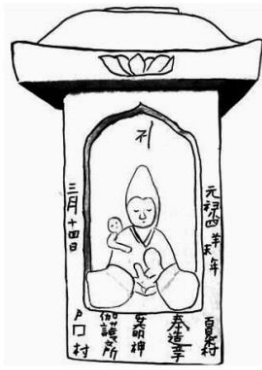


図4 千葉県の出現期の子安像塔



袖ヶ浦市
百目木子安神社
元禄4年 (1691)



酒々井町
柏木 新光寺墓地
元文5年 (1740)



酒々井町
下岩橋 大仏頂寺
延享元年 (1744)



酒々井町
伊篠 白幡神社
明和7年 (1770)



香取市
虫幡日向山薬師堂
元文5年 (1741)



栄町
西新田霊園
元文5年 (1741)



酒々井町
尾上住吉神社
宝暦元年 (1751)



酒々井町
酒々井朝日神社
宝暦4年 (1754)

図5 印西市域に特徴的な子安像塔



印西市
岩戸 西福寺
安永5年 (1776)



我孫子市
江蔵地青年館
天明元年 (1781)



印西市
松崎火皇子神社
天明7年 (1787)



佐倉市
鏑木周徳院
寛政6年 (1794)